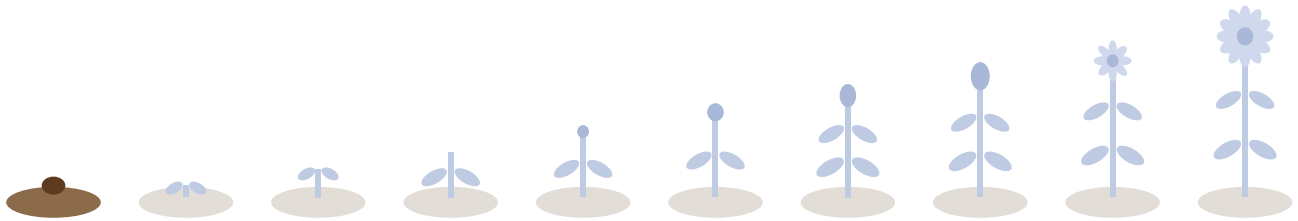
ＩＤＦＩインパクトファイナンス人材育成研修【基礎編】

What インパクトファイナンスとは

1.1 インパクトファイナンスの基本概念



1.1 1.2 1.3 1.4 1.5 1.6 1.7 1.8 1.9 1.10

インパクト志向金融宣言
Japan Impact-driven Financing Initiative

基礎編の構成

基礎編は1.1～1.10の構成となっています。本日は、1.1についてご説明します

大項目		項目	
What	**インパクトファイナンスとは**	1.1	**インパクトファイナンスの基本概念**
Why	なぜインパクトファイナンスに挑戦するのか	1.2	取り組みが拡大する背景と意義
Who	誰がインパクトファイナンスを支えているのか	1.3	インパクトエコシステムを構成する主要なアクター
How	どのようにインパクトファイナンスを実施するべきか	1.4	主要な原則・ガイドライン
		1.5	IMM①全体像
		1.6	IMM②戦略策定
		1.7	IMM③KPI設定・測定
		1.8	IMM④測定・把握／エンゲージメント
		1.9	IMM⑤進捗開示
Upcoming	今後の展望	1.10	インパクトファイナンスの発展テーマ

本研修回の目的

インパクトファイナンスの基本概念を理解する

「インパクト」とは

インパクトとは、組織の活動が個人・社会や自然環境にもたらす状態（アウトカム*1）の変化のことです。「その活動がなかった場合」と比べて、人や環境の状態（アウトカム）がどれだけ変わったかで捉えます*2

	定義	事例
ポジティブ・インパクト（アウトカムの改善）	個人や社会、環境の状況を**改善する**、または持続的な解決を実現するような変化・効果	• 持続可能な森林管理による土壌と生物多様性の再生 • フェアトレードによる途上国の生産者の生活の改善や持続可能な生産の促進
ネガティブ・インパクト（アウトカムの悪化）	個人や社会、環境の状況を**悪化させる**、あるいはその可能性があるような変化・効果	• 有害な汚染物質の放出による環境汚染や健康被害 • 鉱物資源の採掘による紛争、暴力、人権侵害の助長

*1 アウトカム：人々が経験するウェルビーイング（健康や暮らしの豊かさ）の水準、または自然環境の状態
*2 インパクトとアウトカムの定義や捉え方には、複数の考え方・整理の仕方が存在し、本定義はIMPに基づく
出典：IMP

直接的インパクトと間接的インパクト

企業の商品やサービスを通じて創出されるインパクトには、直接と間接の2種類があり、それぞれインパクトの実現の仕方や、発生するまでのタイミングに違いがあります

間接的インパクト → **直接的インパクト** → 社会及び地球へのポジティブな変化・効果の実現

	間接的インパクト	直接的インパクト
定義	間接的インパクトは、他社が直接的インパクトを実現するためのイネーブラー。インパクト発生までにタイムラグが生じる	直接的インパクトは、製品やサービスによる直接的な結果として生じる
企業例	Ontruck AIを使用した貨物輸送の効率化システムを提供し、運送会社のCO2排出削減を通じた環境負荷低減に貢献する	HIVED CO2排出量ゼロのEV配送システムを構築し、各配送で発生するCO2排出量を削減する

出典：Impact VC: “Founder Impact Playbook”
Ontruck: HP、HIVED HP

インパクトファイナンスとは

インパクトファイナンスとは、財務的リターンと並行して、ポジティブで測定可能な社会的及び環境的インパクトを同時に生み出すことを意図する投融資行動のことです

インパクトファイナンスの定義（GIINの定義に準拠）

「インパクトファイナンスとは、**財務的リターンと並行して、ポジティブで測定可能な**
社会的及び環境的インパクトを同時に生み出すことを**意図する**投資行動」

GIIN

グローバル・インパクト投資ネットワーク（Global Impact Investing Network: GIIN）は、国際的にインパクトファイナンスを推進する非営利団体

出典：GIIN Publications Core Characteristics of Impact Investing より引用

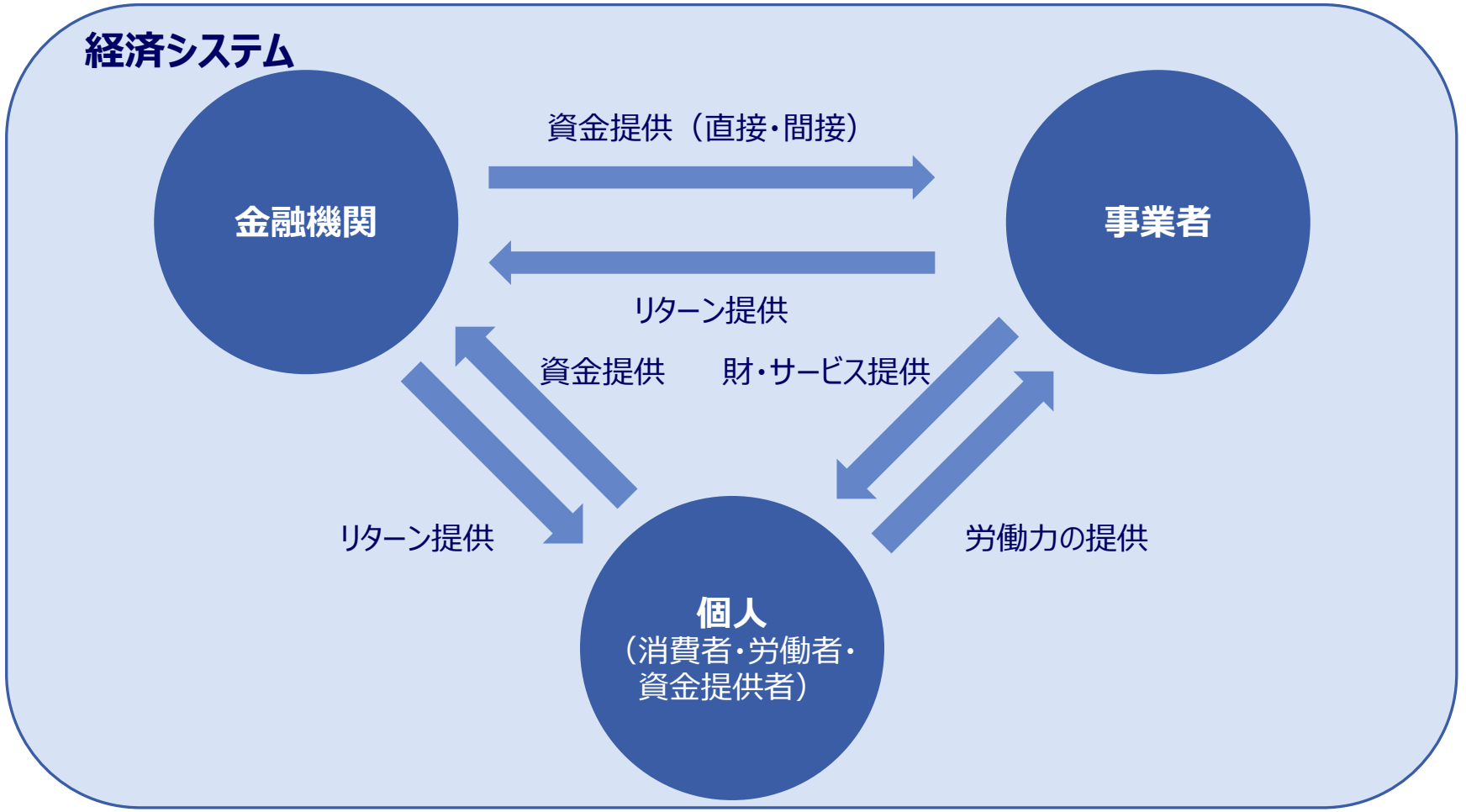
日本のインパクトファイナンスの流れ

投資家・事業者・政府等の流れは、CSRからESGを経て、インパクトの追求へと向かっています

	CSR・責任投資時代 (~2015)	ESGの広がり ('15~22)	Beyond ESG ('22~)
投資家側の流れ	・責任投資原則（PRI）の策定（2006年） ・リーマンショック後の金融セクターの反省	・PRIへGPIFが署名（2015年） ・ESG投資の急速な広がり	・ESGは浸透・規制へ ・真のインパクトの追求へ
事業者側の流れ	・企業の責任としてのCSR	・地球環境課題の顕在化による、事業とサステナビリティの統合へ	・社会課題の事業機会化 ・サステナビリティ経営自体が経営イシューへ
政府・国際開発援助・民間助成の流れ		・課題の複雑化と民間イノベーションへの期待、財政的制約による民間資金への期待により、「民間資金の動員」へのドライブが強化（「骨太方針」への言及（2022年）） ・「成果の可視化」への要請による「インパクト評価」の実施	

経済システム（1/2）

従来の経済は、金融機関・企業・個人の循環を見てきました



経済システム（2/2）

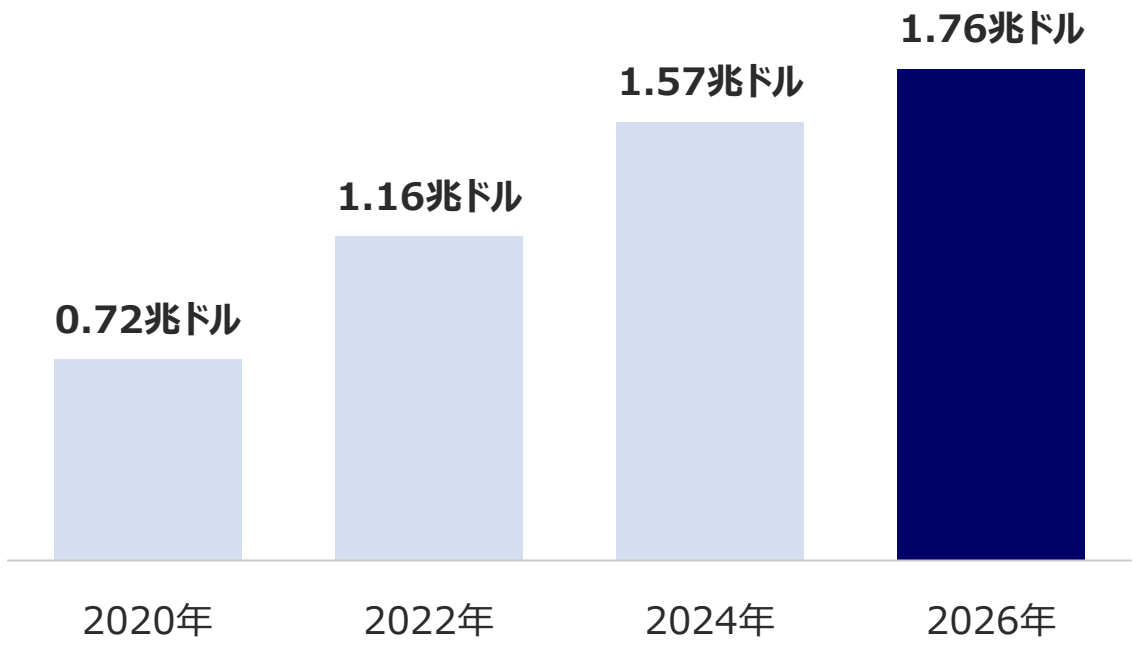
しかし、経済は社会・環境の中にあり、外部への影響が無視できません。経済活動が社会・環境に生む外部不経済に、セクターを超えて向き合うことが求められています



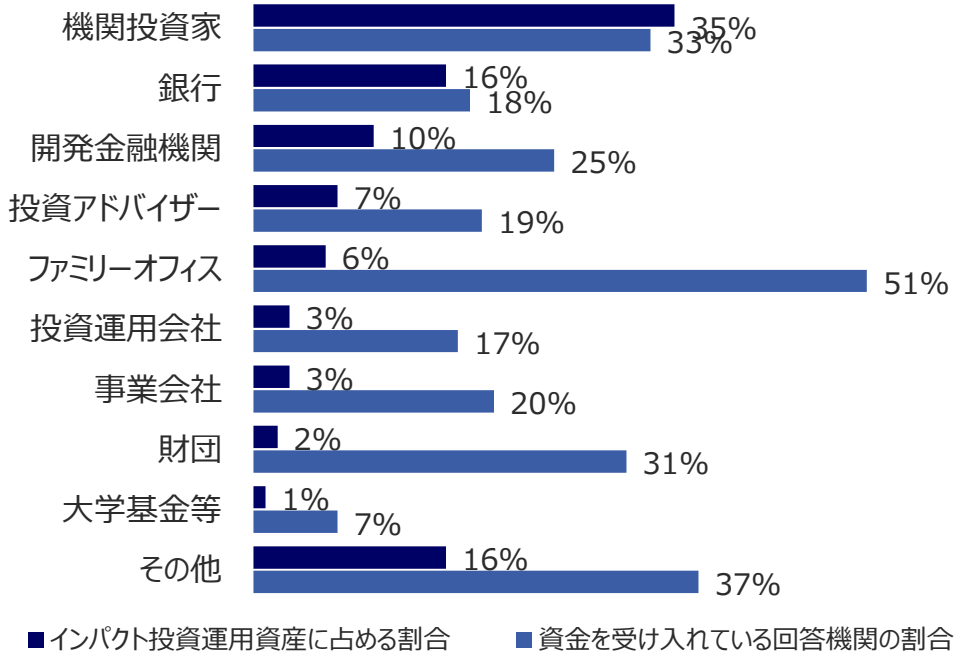
世界のインパクト投資

世界のインパクト投資残高は2026年に1兆7,600億ドルに達しました。資金の供給元では、年金基金・保険会社等の機関投資家が運用資産の35%を占めます

世界のインパクト投資残高（兆ドル）



インパクト投資資金の供給元別内訳（2026年）



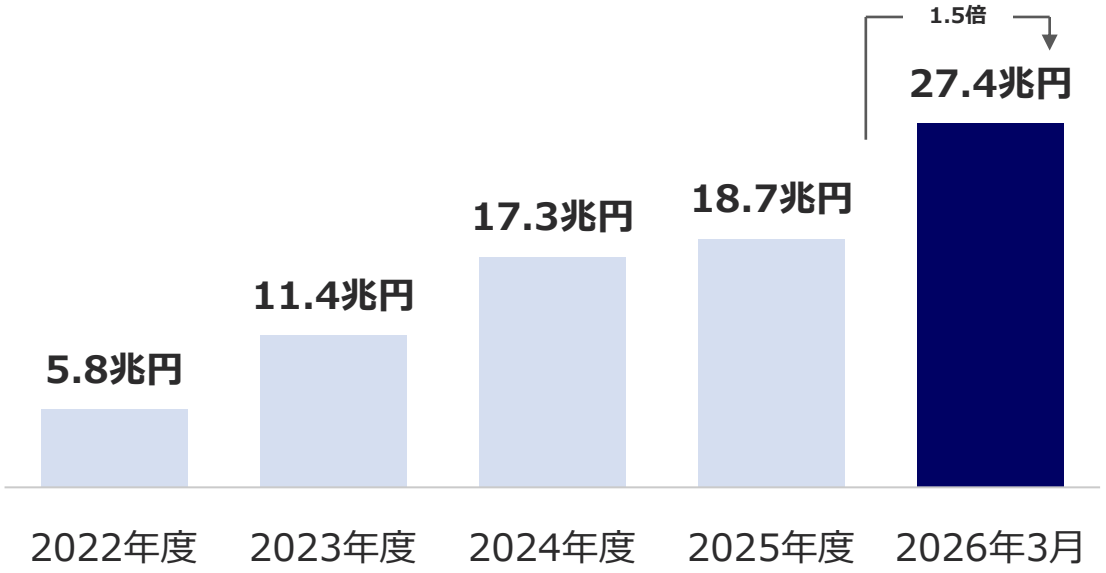
注：n=183。機関投資家は年金・保険・政府系ファンド。回答機関の割合は複数回答

出典：GIIN: *"State and Size of the Impact Investing Market 2026"*よりGLIN作成

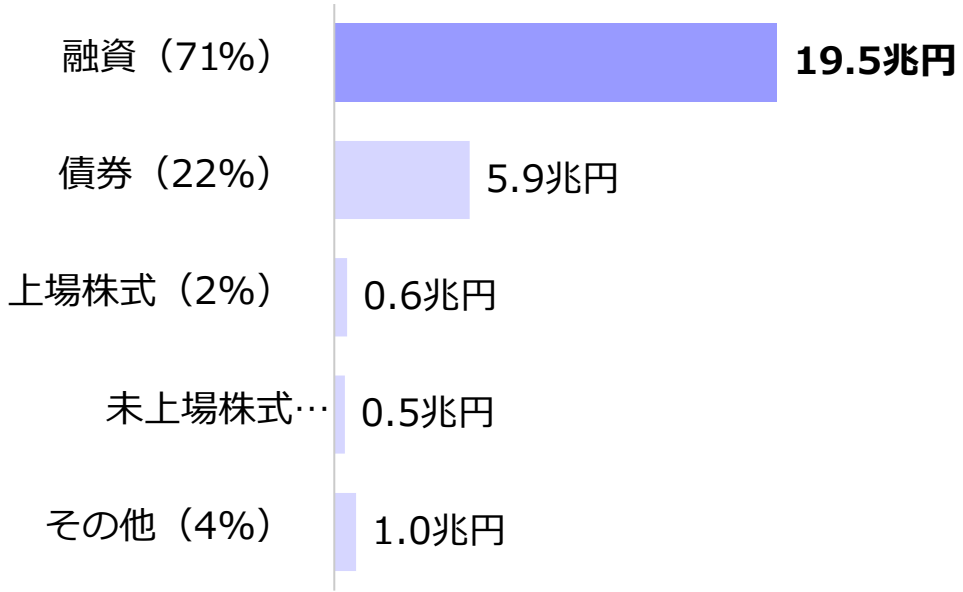
日本のインパクトファイナンス：残高

インパクトファイナンス残高は2026年3月末に27兆3,606億円と、前年比1.5倍に拡大しています。2026年3月末のアセットクラス別残高は、融資が71%、融資・債券を合計すると９割を超えています

日本のインパクトファイナンスの残高推移



アセットクラス別残高（2026年3月）

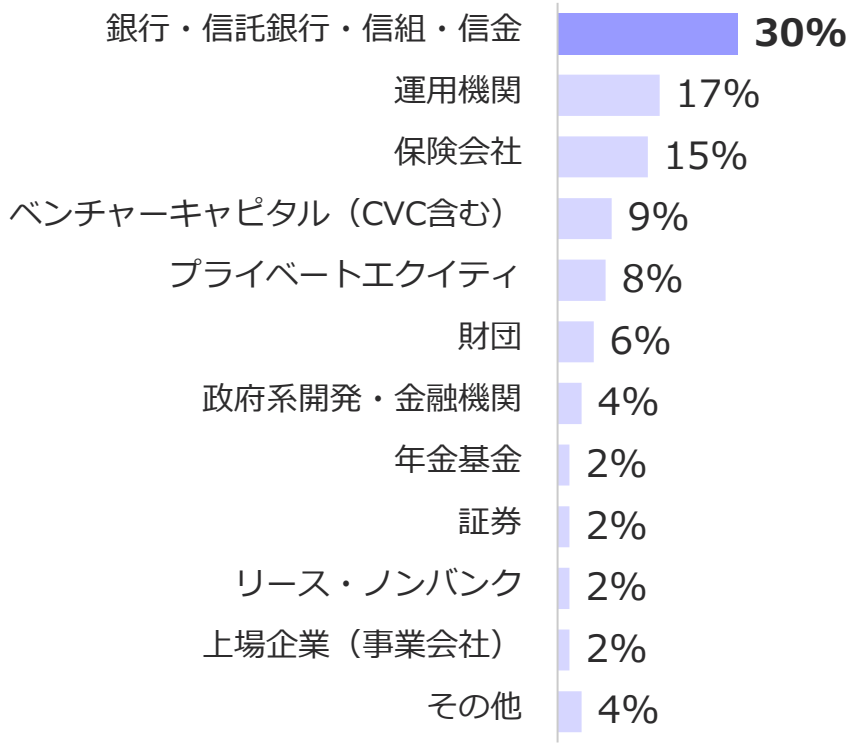


- ~2025年度GSG Impact Japan「インパクト投資に関するアンケート調査（2025年）」回答組織のうち、インパクト投資の要件を満たす組織の投資残高（Assets Under Management, AUM）の総和
- 2026年3月は『インパクト志向金融宣言 プログレスレポート2026』のデータ

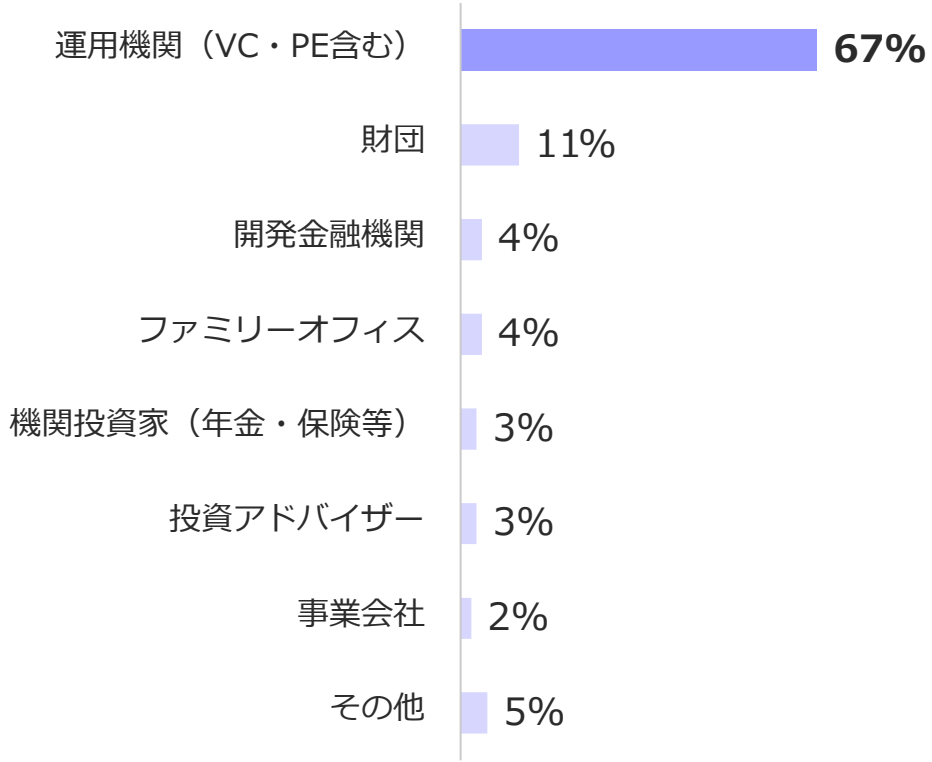
日本と世界のインパクトファイナンス：取り組む組織

世界ではVC・PEを含むファンドが約3分の2を占める一方、日本では銀行・信託銀行・信組・信金が30%を占め、金融機関の存在感が大きいことが特徴です

日本：取り組む組織の業種（n=53）



世界：取り組む組織の形態（n=331）



注：世界の「機関投資家」は年金基金・保険会社・政府系ファンド、「その他」には銀行を含む。調査の対象・定義が異なるため、比率は参考比較
出典：GIIN: *"State and Size of the Impact Investing Market 2026"*、GSG Impact Japan（2026年）『日本におけるインパクト投資の現状と課題 2025年度調査』よりGLIN作成

ESGインテグレーションとの違い① 投融資の目的

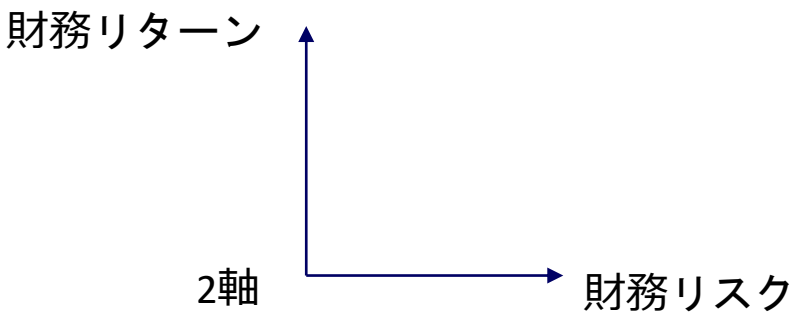
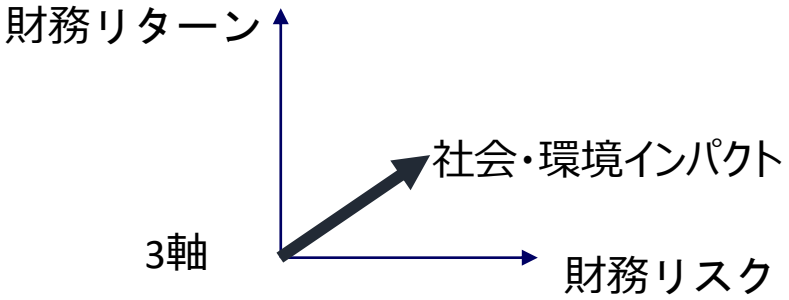
責任投資*1においては、スクリーニング等様々な手法がある中で、代表的手法であるESGインテグレーションはESG要因を投資判断に反映してリスク調整後リターンの改善を目指す一方、インパクトファイナンスは財務リターンと正の社会・環境インパクトの両立を目指します

	ESGインテグレーション*2	インパクトファイナンス
目的	リスク調整後リターンの改善	投融資を通じた、社会に生み出される正のインパクトの拡大
重視する視点	ESG要因が投資先の企業価値に与える影響	投融資が社会・環境にもたらす変化と、その実現への貢献
特徴的な手法	予測財務諸表・財務比率の調整 シナリオ分析・感度分析など*3	インパクトDD（デューデリジェンス） インパクト評価・管理（IMM）など

*1 責任投資には、ESGインテグレーションのほか、「スクリーニング」、「テーマ投資」、「スチュワードシップ」、「インパクト投資」などがある（PRI）
*2 ESGインテグレーション：より良いリスク管理と収益向上のために、投資分析と意思決定にESG要素を含めること（PRI）
*3 PRI “Definitions for Responsible Investment Approaches”（2023）を基に作成

ESGインテグレーションとの違い② 投融資の軸

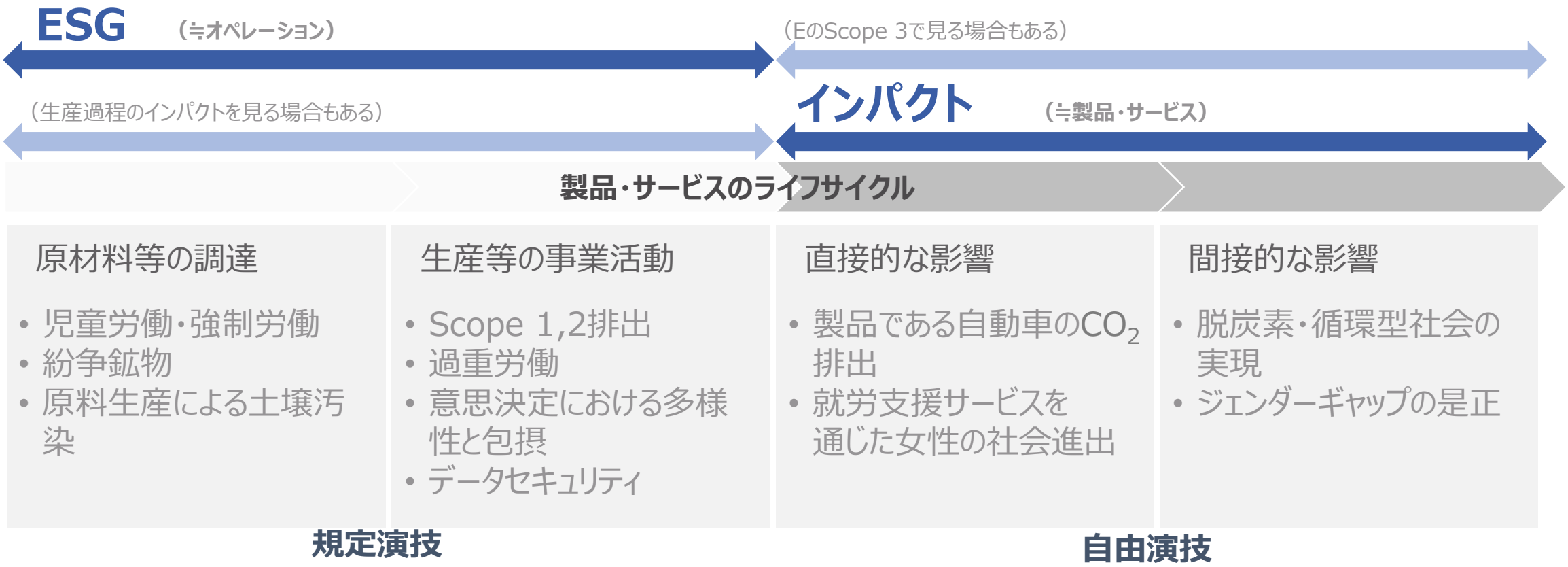
ESGインテグレーションはESG要因を財務的なリスク・リターンの観点から評価する一方、インパクトファイナンスでは「社会・環境インパクト」が第3の評価軸に加わります

	ESGインテグレーション	インパクトファイナンス
投融資の軸		
「リスク」の意味	• 財務リターンが期待どおりに得られないリスク	• 財務リターンが期待どおりに得られないリスク • 意図したインパクトが実現しないリスク

図の出典：ティッカートーク『インパクト投資とは？ESG投資との違いや日本での取組み事例』（2023年）をもとに作成

ESGとインパクトの関係

企業に要請されるマネジメントや開示の範囲は、事業活動のプロセスにおける外部性のみを考慮したもの（ESG）から、製品・サービスが広く社会にもたらすインパクトに広がっています

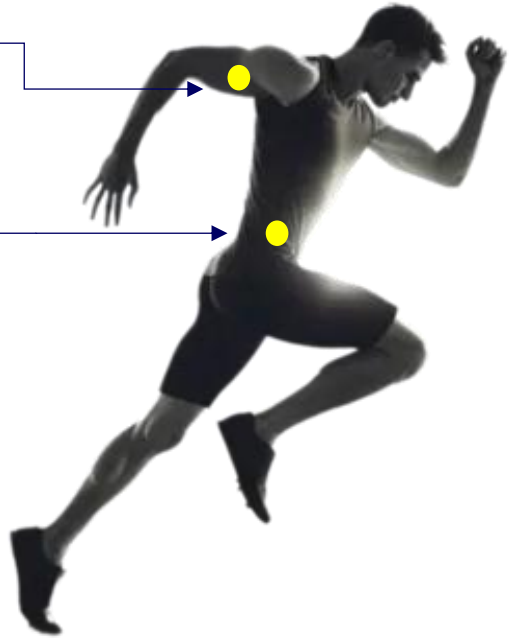


参考）インパクトとESGの関係性　※GLIN見解

企業をアスリートに例えると、筋肉が財務資本、内臓がESGなどの非財務資本になります。持続的に高いパフォーマンス、すなわち業績と社会的インパクトを創出するには、財務・非財務の両面で強靭な肉体が必要です

①筋肉：**財務基盤**

②内臓：**ESG対応**



③パフォーマンス：**業績**と**インパクト**

- **業績**＝財務的な効果＝売上高、利益etc.
- **インパクト**＝非財務的（社会的）な効果＝格差の是正、教育の質の向上、ウェルビーイングetc.

①～③の総体：**企業価値**

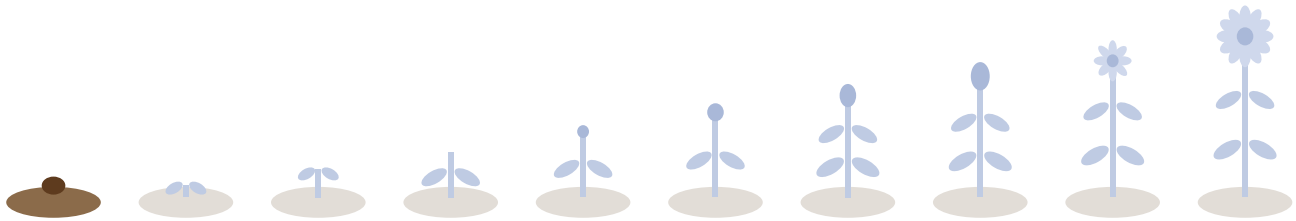
本研修回のクイズ

以下のQRコードからクイズに挑戦してみましょう！
皆さまのご回答へのご協力をお願いいたします。



インパクト志向金融宣言

Japan Impact-driven Financing Initiative



1.1 1.2 1.3 1.4 1.5 1.6 1.7 1.8 1.9 1.10